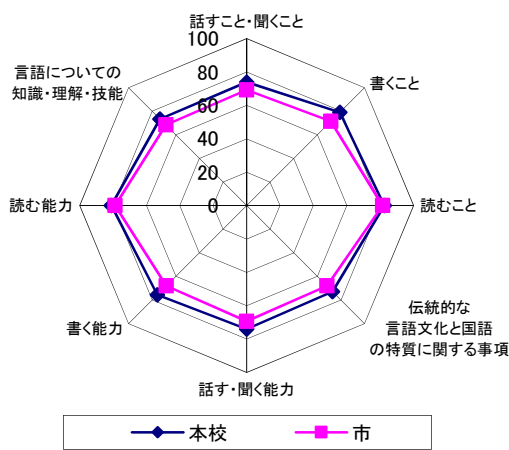


宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.0	69.3	73.4
	書くこと	78.9	71.3	74.6
	読むこと	82.5	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.8	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	74.0	69.3	73.4
	書く能力	75.5	68.1	71.7
	読む能力	81.0	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	73.4	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

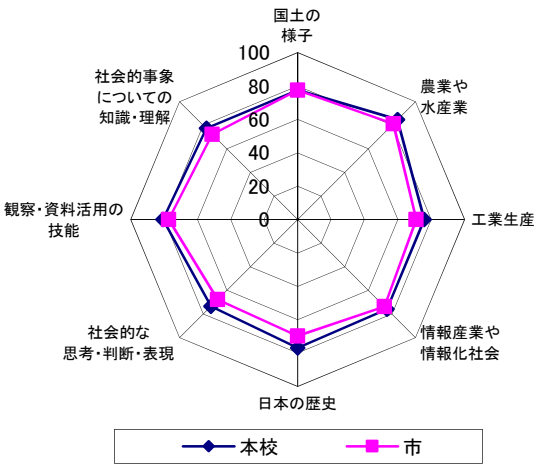
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を大きく上回っている。 ○学習の振り返りを自分の意見や考えを発表し合う機会を意図的に設けたことが成果に繋がった。	○引き続き、話し手の意図を考えながら聞き、即座にその考えを的確にとらえ、自分の意見を述べる機会を設け指導する。
書くこと	どの設問も市の平均正答率を大きく上回っている。 ○自分の考えを自分の言葉で表現し、ノートに記していくことを習慣づけたことが正答率が上がる要因となっている。 ●二つの情報を正しく読み取り、比較しながら自分の意見を整理し、まとめて書くことは、苦手な傾向にあるため、今後の指導の重点としたい。	・引き続き、日常的に自分の意見やその理由、根拠を考え、文章にする時間を十分に確保していく。
読むこと	市の平均正答率を大きく上回っており、全体的に平均正答率が高く、8割を超えている。	・教科書の音読や新聞のコラム欄などを読む活動を通して、主旨をしっかりと捉えられるような指導を継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	どちらも市の平均正答率を上回っている。	・普段からその場に応じた敬語を使って会話をするように指導する。また、相手によって敬語の種類を適切に使用できるように指導する。

宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	77.5	77.5	74.0
	農業や水産業	84.6	81.1	73.7
	工業生産	75.9	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	75.9	73.7	63.2
	日本の歴史	76.9	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.3	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	80.7	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	77.3	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

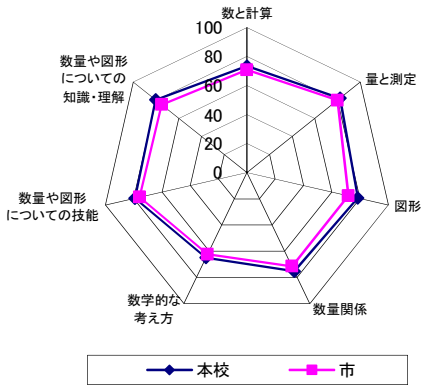
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	市の平均正答率とほぼ同じである。 ●日本の気候の様子について、説明にあてはまる雨温図と都市の位置を判断する問題で市の正答率を下回っている。日本周辺の海洋名、国旗の名前については全国正答率をやや下回っている。	・全国正答率よりは上回っているもの、市の正答率と比べると高くない正答率であるので、重点的に指導を続け定着を図っていく。
農業や水産業	市の平均正答率に比べ、上回っている。 ○日本の食料自給率については、9割以上の児童が十分に理解をしている。 ○日本の食料生産がかかえる課題について、資料をもとに考える問題の正答率は、市や全国 of 正答率を大きく上回っている。	・今後も資料を見て考え、学習して分かったことやこれまで学習したことを使って自分の言葉でまとめる活動を継続していく。
工業生産	市の平均正答率に比べ、上回っている。 ●化学工業の製品の問題については、市の正答率を上回っているものの理解が不十分な児童が約3割いる。 ○工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り、考える問題についての正答率は、市や全国を約6%上回っている。	・学習内容と身の回りにある工業製品とを関連付けて考えられるよう指導していく。
情報産業や情報化社会	市の平均正答率に比べ、やや高い。 ○マスメディアの種類や情報ネットワークの利便性については十分に理解しており、全問で全国 of 正答率を大きく上回っている。	・図書館などにある児童に身近な情報ネットワークについて、引き続き重点的に取り組み、実体験の中から理解が深められるようにしていく。
日本の歴史	市の平均正答率に比べ、高い。 ○鎌倉時代や江戸時代の学問・国際社会で活躍した日本の学者に関する問題では市の正答率を大きく上回っている。 ●資料を見て自分の考えを表現する問題ができていない。	・歴史の流れや背景、歴史上の人物の思想などを意識しながら、関連資料の一つひとつを丁寧に学習していく必要がある。特に歴史上の大きな事件や出来事の前後については年表でも確認するなど、重点的に指導し整理していく。

宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.4	70.8	65.9
	量と測定	82.2	79.9	77.0
	図形	78.4	71.8	74.6
	数量関係	75.4	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	65.1	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	79.1	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	80.4	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

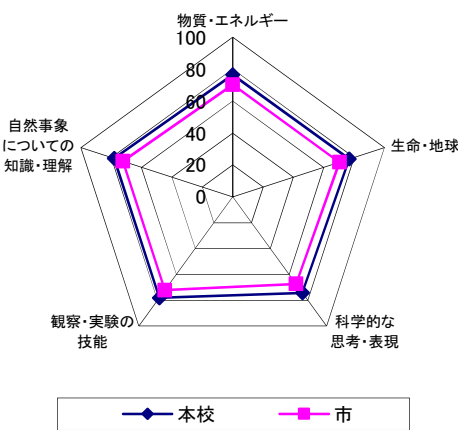
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は全体的に高かったが、領域の中では正答率が一番低い。 ○市の正答率・参考値を若干上回っていた。 ○少数のわり算や約分のない分数の計算の正答率は、90%を超えた。 ●図を使って、分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題では、正答率が5割を下回っていた。 ●文章問題の解法を説明する問題が市の平均を下回っていた。	・授業の中で、解法を説明したり理由を説明したりする活動を意図的に取り入れていく。 ・図や線分図から立式することに繰り返し取り組ませることで、図や線分図の意味を正しく読み取れるようにさせたい。 ・問題の意図することをしっかり捉えることができるように発展的な文章問題に取り組む場を増やしたい。
量と測定	平均正答率は領域の中で一番高い。 ○参考値を7ポイント上回っており、全体的に正答率は平均を上回っていた。 ○道のりを求める問題や、ひし形の面積を求める問題など、基本問題の正答率が高いことから、基礎基本の十分な定着が見られる。 ●三つの図の面積と人数の割合を比べて正解を導く問題の正答率が市と比べて5ポイント下回っていた。	・基本的な内容の習得を大切に、繰り返し練習に取り組むなどして、さらに、基礎基本の定着を図る。 ・友達やグループの人の違った考え方や解き方に多く触れる活動を意図的に取り入れ、多様な見方や考え方ができるようにする。
図形	平均正答率は高い。 ○市の平均と比べると、7.6ポイント上回っており、参考値も若干上回っていた。 ○作図の問題や、点対称な図形に関する問題の正答率が9割を超えており、基礎基本の定着が十分見られる。 ●五角形の角の大きさを求める問題の正答率が、市の平均を8.2ポイント上回っているものの57.4パーセントと低かった。	・文章問題を注意深く読み、どんな情報が与えられ、何を求めたらいいのかを正確に把握してから、学んだことを使って解決に向かう指導をしていく。 ・学んだことを生かすような問題に取り組んだり、一つの問題でも様々な解き方があるという視点を意識して指導をする。 ・作図などの基礎基本の部分を一人一人丁寧な指導を継続し、定着を図る。
数量関係	平均正答率は高い。 ○比例・反比例の立式をする問題では、正答率が87.0%と市の平均を10.8ポイント上回っていた。 ○グラフや表の情報を正しく読み取る問題の正答率は高く、基礎基本の定着が見られる。 ●割合と量を表したグラフを読み取って、情報の正誤を答え理由を説明する問題に関して、情報の正誤は83.5%が正しく判断できているが、理由を記述する問題については正答率が36.5%と低くなっている。	・グラフを見て情報を読み取る機会を多教科にまたがって意図的に取り入れ、理由や説明を記述する学習活動を重ねる。 ・グラフから得られる情報や考えの根拠となる理由を正しく記述できるように、重点的に押さえるべき箇所を指導するようにする。 ・理由を説明する活動で、正確に説明できる児童の発言を数人の児童に繰り返し説明させたりノートに書かせたりする活動を普段の授業から取り入れ、正しく説明する力を高められるようにする。

宇都宮市立瑞穂台小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.5	70.3	69.0
	生命・地球	76.8	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	74.3	67.5	66.4
	観察・実験の技能	78.3	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	78.1	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市平均を上回っている。 ○授業で実験したことは体験として残っており、学習内容をよく理解している。 ●水にとけた物を取り出す方法について、溶けている物の性質から適切な取り出し方を説明することがやや理解されていなかった。	・予想・計画・実験・考察の課題解決の流れが身につけており、正しく学習内容が定着している。今後は、予想を立てるときや実験の考察の時に、生活経験や既習学習と関連付けながら事象を考えられるよう、声かけや支援をしていく。 ・自分の考えを書いたり、話し合って考えを全体で共有し深めていくことができるよう、話し合いの場を意図的に多く設定していく。 ・小テスト等を準備して理科的用語を定着させる。
生命・地球	平均正答率は市平均を上回っている。 ○学習内容が理解されており、知識がよく定着されている。また、事象を説明するときに、キーワードを使って説明することができるようになってきている。 ●動物のからだのつくりとはたらきの問題では、普段使い慣れていない言葉の理解が不十分であった。	・月と太陽の学習や、ヒトや動物のからだの学習など、実物を使っでの学習がしにくい単元については、模型を使って考えたりビデオ教材を活用したり調べ学習を行ったりして、興味・関心を深めていく。 ・今後もキーワードを使って自分の考えなどを記述する機会を多く設けていく。 ・苦手とされる単元や学習して時間がたった単元について、復習や補習を行い、知識の定着をさらに図っていく。 ・理科の事象と日常生活との関わりが結びつけられるよう支援していく。

宇都宮市立瑞穂台小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的な学習態度・習慣の形成	「家庭学習のすすめ」を示し、保護者の理解を得ながら家庭学習の充実と学習内容の確実な定着を図る。	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している。」と肯定的に答えた児童の割合は、約70%～97%と学年によってばらつきがあり、学年が高くなるにつれ割合は低くなる。しかし、テストの問題のやり直しや学習の計画を立てている児童が、昨年度と比べると増えた。
自分の学びを意識できる学習の工夫	授業の初めにはめあてを、最後にはまとめを全員で確認し、一人一人が授業を振り返り、記録する時間をとる。	「学習したことを、自分なりに分かりやすくノートにまとめている。」と肯定的に答えた児童の割合は、74%～81%と学年によって差が見られる。高学年では、昨年度に比べて増えている。
基礎基本の定着と思考力・活用力形成のための授業の工夫	ペア学習やグループ学習を意図的に設定したり、既習内容をもとに自分の考えを持てるような課題を設定したりする。	全学年で、「先生や友達の話す、最後まできちんと聞いている。」に肯定的に回答した児童の割合は、91%以上である。進んで話し合いに参加したり、自分の考えを理由をあげながら話すことができると答えた児童が、昨年度よりも増えた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学習に取り組む基本的な態度や習慣を身に付けるために、引き続き、家庭学習の充実を図る。
- ・毎時間の「めあて」の設定と「振り返り」の時間を大切にして児童の「分かった」や「できた」を増やすことで、自分の学びを意識したり、楽しく学習に取り組んだりできるようにしていく。
- ・各教科において、条件に合わせて書く活動を取り入れたり、自分の意見やその理由、根拠を考えて文章にしたるなどの時間を意図的に取り入れるなど、授業の工夫をしていく。
- ・特に算数では、友達やグループの人の違った考え方や解き方に多く触れる活動を意図的に取り入れ、多様な見方や考え方ができるようにする。